

地元産の食材に舌鼓

町婦人会料理講習会

3月28日、町公民館調理室で町婦人会（富田セツコ会長）主催の米消費拡大料理講習会が行われました。これは、食の安全が問われている今、地元産の食材にこだわって、よりおいしい料理を作ることを目的に行なわれました。

今回は、^{ともだ まさみ}塘田雅美先生の指導により、地元産の米、さつま芋、卵、ニンジン等を使い「ちらしずし」「インゲンとさつま芋ごま和え」「春のお吸い物」「ミルク風味の芋ぼた」の4品を作りました。

試食に招待された住永町長、各校区の区長会長等は、料理に笑顔で舌鼓を打っていました。

※現在、町婦人会では会員を募集しています。多くの皆様のご入会をお待ちしています。
連絡先 役場生涯学習課
286・3111内線321



地元産の食材でおいしい料理が並びました

男女共同参画社会 推進懇話会より提言書

3月18日、町男女共同参画社会推進懇話会の委員^{もりながひろゆき}3人（会長森永博之さん、委員^{しのはらるみ}篠原晴美さん、^{きしぎきともこ}岸崎智子さん）が町長室を訪れ、提言書を手渡しました。同懇話会では、これまで寸劇公演や情報誌の発行などで啓発活動を行い、討議を重ね、次の3つの提言にまとめられました。

① より以上の委員が啓発効果活動に専念できる体制の整備と早急な町の計画策定の推進。② 住民の相談や子育て支援が随時可能なセンター設置と円滑な運営体制の構築。③ 町内の住民や企業が男女共同参画に優れた功績をあげた場合の行政の積極的な褒章。

これに対し住永町長は懇話会委員の労をねぎらい



森永会長から住永町長に手渡されました

「これからも積極的に行政と皆さんとで協力し、男女共同参画社会実現を目指していきましょう」と語りました。

海外協力隊員としてフィジーへ

出崎香織さん（広崎1町内）

4月11日、JICA青年海外協力隊員として、2年間フィジーに派遣されることになった出崎香織さんが町長を表敬訪問されました。

出崎さんは、中学時代から途上国の人々に手を差し伸べてあげたい、国際協力がしたいと思っていたそうで、大学の時にイギリスへ語学留学した経験を持つ努力家です。

フィジーでの主な業務は「エイズ対策」で、現地保健省での部局間の業務調整、NGOや援助組織との活動調整、また、それに関わる資料や報告書作成等になるそうです。出国に先立ち「今まで学んだことを活かし、フィジーの国の計画の中に自分の声の一つでも反映できれば」と笑顔で抱負を語っていただきました。

ご活躍をお祈りします。



住永町長を表敬訪問した出崎香織さん（中央）と母親の美代子さん（左）

県社会福祉功労者として表彰

上田春日さん（上小谷）

3月19日、視覚障害者の方々に読書環境の充実を図るため、正確な点字図書製作活動を続けてこられた上田春日さんに潮谷知事から県社会福祉功労者表彰状（ボランティア個人の部）が贈られました。

上田さんは平成6年度に点訳講習会を受講以来、約12年以上の長きにわたり、点訳活動ボランティアに取り組んでこられました。また現在は、後進の指導や育成にも携わっておられます。

受賞にあたり上田さんは「今回の表彰には、正直驚いています。今後できるだけ長く、たくさんの方々のためにもこの活動を続けていきます」と笑顔で語られました。おめでとうございます。

住永町長から伝達式で表彰状を受ける上田さん

